

マルガタゲンゴロウ *Graphoderus adamsii* (Clark)

【選定理由】

かつては、平野部～丘陵地の止水域に分布したと推測されるが、全国的に減少が著しい。県内においては、3例の記録があるが、いずれも1960年以前のものであり、近年はまったく確認されていないことから絶滅と判定した。

【形態】

体長12～14mm。体型は卵形でよく盛り上がり光沢がある。背面は黄褐色。頭部に黒色のV字紋がある。前胸背は前・後縁に黒横帯紋がある。上翅は基部と会合部が細く黒色で、網目紋様も黒色。体下面は暗赤褐で、前胸と側片は暗黄褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市と豊田市からの記録、標本が残されているが(穂積・佐藤, 1957; 長谷川, 2002)、60年以上生息確認がされていない。

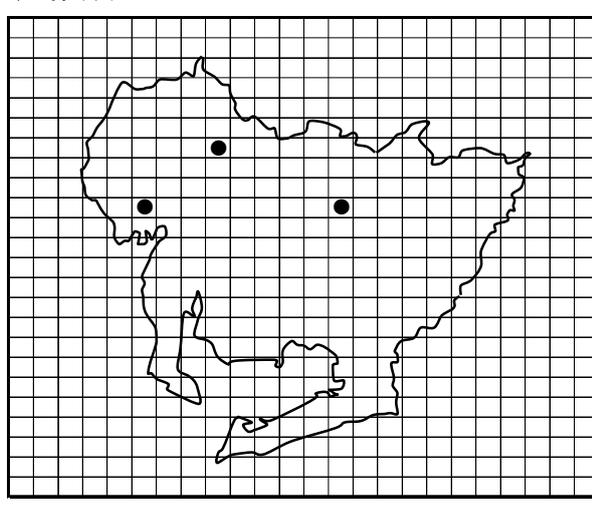
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【国内の分布】

中国、朝鮮半島。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

平野から丘陵にかけての水田、池沼など各種止水域に生息していた。水草などが生育する水域に多いが、生態についてはよく判っていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

上記3例以外の生息情報はない。水田の圃場整備、水質の汚染などによる生息地の減少、環境悪化が主要な減少の原因と推測される。

【保全上の留意点】

遺伝的な多様性については詳しい研究がなされていないので、安易な移入による人為的な回復を図るのは禁物である。現在ある自然度の高い池をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残すことになるばかりでなく、多くの水生生物にとって最も有効な保全手段である。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。

【引用文献】

長谷川道明, 2002. 豊橋市自然史博物館所蔵森部一雄コレクションに含まれる重要な愛知県産甲虫類. 豊橋市自然史博物館研究報告, (12): 49-53.
穂積俊文・佐藤正孝, 1957. 東海甲虫誌(第3報). 佳香蝶, 9 (31): 1-10.

【関連文献】

佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース (65): 1-4.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)